《連載》

管工事業協同組合と水道局との連携

（第５回　横須賀市）

全管連技術参与　小泉　智和
（元東京都水道局理事）

横須賀市上下水道局主催で５日間にわたり「技術施工講習会」が開かれるということで、特に、全国的にも一度に各施工講習会が開催されることは、稀なことなので、全管連技術参与の高橋礼重と小泉智和の両名とで横須賀市を訪問し、講習会を見学してきました。

折角の機会ですので、併せて横須賀市上下水道局並びに横須賀管工事協同組合にも立ち寄り、両者の連携等についても伺ってきましたので、皆さんへご報告いたします。

さて、その前に横須賀市ですが、市は神奈川県三浦半島に位置し、人口約42万人の国際港湾都市です。東京、横浜に近いことから、市はベッドタウンとして発展しています。

歴史的には、景行天皇の御世（110年）、日本武尊が古代東海道を辿って、走水（横須賀市）から船で上総（千葉県）へ渡ろうとしたという記録が残されています。然し、何と言っても横須賀市が全国に知られるところとなったのは、江戸時代、嘉永６年（1853）ペリー一行が黒船で来航し、久里浜に上陸したことです。

以後、東京湾の入り口に位置するため、国防の拠点とされ、浦賀造船所の設置、そして大日本帝国海軍横須賀基地を擁する軍港として栄えてきました。現在は、米軍第７艦隊の基地及び海上自衛隊の基地が置かれています。NHK大河ドラマの「坂本竜馬」や秋に始まる「坂の上の雲」の舞台でもあります。

坂の上の雲　三笠公園の戦艦「三笠」

〈全管連ジャーナル〉2010.8

○横須賀市技術施工講習会

（講習会開催の背景）

水道技術者の高齢化による人員不足や既に資格を有する技術者から再講習の要望が上下水道局に多く寄せられたこと、また不断水穿孔工法は全国統一の資格がないため、横須賀市では専門業者が行う施工講習会を局工事における資格要件として活用できるとの判断から、本講習会を実施しています。

主催　　横須賀市上下水道局

講習会実施場所　　横須賀市上下水道局旧資材管理所

講習会内容等

1　不断水せん孔講習会（横須賀市不断水せん孔講習会修了者）

講習内容　不断水せん孔講座、実技実習、取得度確認

協賛企業　コスモ工機㈱、大成機工㈱

本講習会により不断水工法専門業者から「不断水せん孔講習会受講修了証」が発行されます。＊この「受講終了証」と㈳日本水道協会の「配水管技能者登録証（耐震）」を有する人が、講習修了書を発行した業者の分岐材料に限り、配水管Φ 350 以下で分岐口径がΦ 75 からΦ 150 までのせん孔分岐工事を行うことが出来ます。

2　不断水せん孔講習会（新たな取得希望者）

講習内容、協賛企業、取得資格は、1 に同じ。

3　NS形ダクタイル管施工講習会

講習内容　JDPA 継手講座、実技実習、取得度確認

協賛企業　日本ダクタイル協会

所定の取得度が確認された人に JDPA（日本ダクタイル鉄管協会）の「JDPA 継手接合研修受講証」が交付されます。

＊横須賀市においては、上記受講証を従来の日本水道協会の配管技能者（耐震及び大口径）に加えて局工事における配管の資格要件としています。

4　水道配水用ポリエチレン管配管施工講習受講会

講習内容　配水用ポリエチレン管講座、実技実習、取得度確認

協賛企業　配水用ポリエチレンパイプシステム協会

所定の取得度が確認された人に「水道配水用ポリエチレン管配管施工講習受講証」が交付されます。＊横須賀市の水道配水用ポリエチレチレン管の施工

【講習会日程】

講習会名	5月24日	5月25日	5月26日	5月27日	5月28日
	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
不断水せん孔講習会（本市お持ちの方）		←→	←→		
不断水せん孔講習会（新規希望者）		←→	←→	←→	←→
ＮＳ施工講習会	←→	←→	←→	←→	←→
水道配水用ポリエチレン管施工講習会			←→	←→	

〈全管連ジャーナル〉2010.8

は、配水管技能者（日本水道協会）又は「JPA 継手接合研修終了証」を有する上に、配水用ポリエチレンパイプシステム協会（Politeech）交付の「水道配水用ポリエチチレン管施工講習受講証」が必要です。

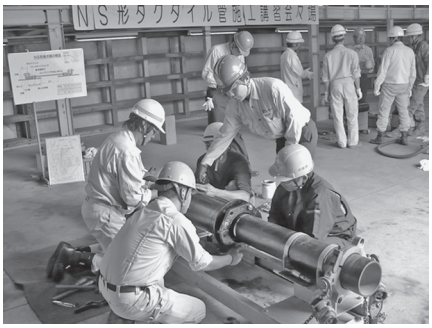
○横須賀市の上下水道

横須賀市の水道は、明治９年にフランス人のヴェルニーが、走水の湧き水を横須賀造船所まで引いたのが始まりで、その後、この水道は海軍で使われました。

時代は下って、明治41年に、市は造船所の水道施設を譲ってもらい、市営水道としました。戦後、海軍の水道施設も横須賀水道のものとなりましたが、増え続ける人口生活様式の変化により水需要が増大、市は神奈川県、横浜市、川崎市などと協力して４つのダム（相模・城山・三保・宮ヶ瀬）を造り、水需要の増大に対処してきました。

講習会全体風景

不断水せん孔講習会風景

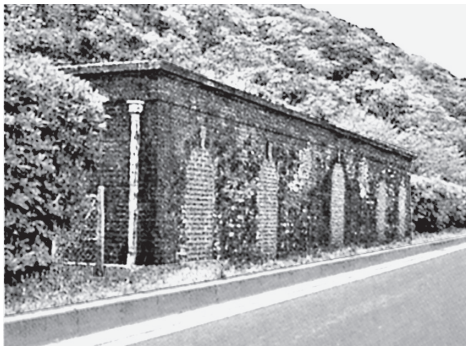


ＮＳ形ダクタイル管施工講習会風景

水道配水用ポリエチレン管配管施工講習会風景

〈全管連ジャーナル〉2010.８

逸見総合管理センター（総合的な水配管理）



走水水源地

平成20年に給水開始100周年を迎えた横須賀水道ですが、平成22年度を目標とする「上下水道事業マスタープラン2010」では、計画給水人口45万人、１日最大給水量は32万㎥となっています。

下水道は、昭和19年に始まりましたが、戦争で中段、本格的に下水道の建設が始まったのは昭和38年で、今日横須賀市の下水道普及率は、97.4％（平成21年度末）となっています。

なお、平成16年に、水道局と下水道部は統合し、上下水道局となっています。

●横須賀市の水道修繕にかかる体制

お客様から漏水等の連絡が、上下水道局修理保全課に入ると、配水管は請負単価契約業者（17社）により対応します。

配水管から分岐した給水装置の修繕は、市内に登録の指定給水装置事業者（106社）の中から近隣の業者２、３社を紹介、併せて市管工事協同組合の「管工事サービスセンター」があることも紹介しています。

＊横須賀市では、市外からの登録業者が317社と多いのが特記されます。想定するに、横須賀は東京、横浜のベッドタウンで、マンションが多く、建設時の水道工事店がそのまま当該建物の修繕対応等で市へ登録しているものと思われます。

○横須賀管工事協同組合

協同組合は、昭和26年（1951）に設立、来年で60周年を迎えます。

管工事サービスセンターは平成10年に設立されています。協同組合では、管工事サービスセンターを積極的にPRするため、「市民便利帳」や「社協だより」（年４回）などに掲載しています。市としても、市民からの悪徳業者苦情に対応するため、市広報への掲載を許可しています。

なお、協同組合では、組合員が商社等から資材を購入するに当たって、組合員の支払い代行やΦ75からΦ150までのせん孔工事を組合が事業として行っています。当該工事は、組合の専従職員が行っています。また組合では組合員へせん孔機の貸し出しも行っています。

・組合事務所　　横須賀市小川町25－１
・組合員数　　31社（他に、準会員30社）
・理事長　　石井　栄一
・組合設立　　昭和26年12月

〈全管連ジャーナル〉2010.8

横須賀市管工事会館

●防災協定

本年４月に、横須賀市上下水道局と横須賀管工事協同組合とで、大規模災害時等における被害の防止及び応急復旧工事の施工に関し「防災協定」を締結しました。

以前から協定はあったのですが、阪神淡路大震災における災害復旧の協力実績をふまえ、今年から上下水道局と協同組合との間で再締結に到ったものです。

当ジャーナルの６月号「給水工事技術振興特別座談会」の中で、日本水道協会専務理事の御園良彦さんは、「管工事組合に加盟していない指定工事店もありますが、いくら規制緩和だといっても地震が起きて火事場になっている時に、万余の工事店にいちいち応援を頼んでいたら迅速な対応は困難です。やはり一定の組織力を持つ地元の管工事組合には力強い存在感があります。」と述べています。私も、正論だと思います。

○管工事業協同組合の皆さんへ

このシリーズを書くこととしたのは、一つには「市民に水道や指定業者に関する情報が十分に伝わっていない」と言う声に対して、そうでもないよ、こんなことをしている組合もあるよ、ということを皆さんに

水道・お湯の水漏れ!
排水・下水の詰まり!
お困りの時は!!
地元の安心・安全な修理工事店へ!!!
横須賀管工事協同組合
管工事サービスセンター
〈横須賀市上下水道局指定工事店へ!!〉
☑トイレ ☑排水管 ☑キッチン
☑洗面所 ☑風呂場 ☑蛇口
☑排水口 ☑給湯器 ☑床下
0120-229091
365日 24時間対応

よこすか市民便利帳：記載広告

水道・お湯の漏水 排水・下水の詰まりでお困りの時 お電話下さい!!
宅地内の修理のご依頼は、地元の安心・安全な修理工事店へ!!
24時間迅速対応
上下水道局指定工事店
排水設備指定工事業者
365日対応
横須賀管工事協同組合 管工事サービスセンター 0120 0120-229091

「社協だより」でのＰＲ

紹介すること、そして、もっと組合が市民に対してPRを積極的に行ってもらいたいということにあります。一つには管工事業協同組合が色々な場面で、市水道当局と連携してこんなにも頑張っているのだと言うことを皆さん並びに水道当局に認識してもらうことにあります。

そういった点では、横須賀管工事協同組合の頑張りが良く目に映りました。

しかし、市内の水道工事店の数に比して、組合加入の店の数が気になりました。設立当初からの経緯や組合加入費などの問題があるかと想定されます。

今日、指定給水装置事業者の指定が全国規模になったことなどから、何処の組合でも組合員数の減少があると聞き及びます。

これを食い止め、又増強を図るには、やはり組合員の団結、また組合の存在を市民並びに水道当局に認知させ、期待されることにあると思います。皆さんにおかれては、そのための取り組みに、引き続き努力していただきたいと思います。

〈全管連ジャーナル〉2010.8